

平成25年度第1回

(2013年度)

吹田市景観まちづくり審議会

日時 平成25年7月25日(木)午後1時30分

場所 メイシアター1階 集会室

平成25年度第1回吹田市景観まちづくり審議会会議録 (要点筆記)

1. 開 会

松本都市整備室長　ただいまより、平成25年度第1回吹田市景観まちづくり審議会を開催させていただきます。本日は公私ともお忙しい中、当審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。わたくし、都市整備部都市整備室長の松本でございます。会議の進行を担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

2. 委嘱状交付

太田副市長から各委員へ

3. 挨拶

太田副市長　挨拶

松本都市整備室長　事務局紹介

各委員の自己紹介

4. 会長、副会長の選任

会長に鳴海委員、副会長に久委員

4. 会議進行

鳴海会長　それでは、第1回吹田市景観まちづくり審議会の議事に入りたいと思います。本日、傍聴者はおられますか。

松本都市整備室長　本日は傍聴者はおられません。

鳴海会長　それでは、事務局より本日の案件について、説明をお願いします。

5. 案件説明

景観まちづくりに係る施策の方向性について

その他

参考事例紹介

岡委員 内容説明

鳴海会長 内容説明

6. 意見・質疑

鳴海会長 本日は自由に意見を頂きたい。

久副会長 景観まちづくり活動の支援について、景観だけを取り出して考えるのではなく、まちをどうするかということを住民が議論して、その成果の1つとして景観が成り立つという風に考えたほうが良い。都市計画のまちづくり支援制度が活用されているのであれば、それと合体させるのも1つの手法ではないかと思う。内本町や岸部といった歴史的地区でも、そこに住んでいる人々が自分たちのまちの将来像をどのように描くのかによって方向性が大きく変わってくる。それは地区のまちづくりをどうしていくかということと重なってくる。せっかく「景観まちづくり」というように、景観とまちづくりを合体させたのだから、先にまちづくりの議論をして、景観やまちなみをどうしていくかというプロセスを大切にしたい。そのためにまずは地区まちづくりの方向性を示していかなければならないのでは。

鳴海会長 事務局の説明を聞いても、まちづくりの中の景観面だけを取り出しているように聞こえる。まちづくりの1つの側面が景観で、景観だけ切り取ると薄っぺらく見えてしまう。

清水都市整備室主査 一旦総括する上で、景観まちづくり計画の中でどういった取り組みをしてきたかという整理をしながらの説明をさせていただいた。景観だけを切り取っている訳ではなく、地区計画策定への支援等都市整備部全体で様々な取り組みを総合的・一体的に進めている。

A委員 ランドスケープの観点から言うと、景観は環境の評価の総体ではないかと考えている。例えば、緑1つにしても、単に見た目の緑だけではなく、環境としての性能や、生物としての意味、季節の移り変わりまで評価していくべきでは。環境と景観は通じるものがあるし、そういった点も加味しながら取組んでいくべき。また、景観重要建造物等の指定はまだないとのこと

だが、吹田の地域資源がまだ十分に発掘されていないように思う。待っているだけではなく、市民への啓発も含め、攻めの姿勢も必要では。放っておいたら良いものがどんどんなくなっていく。

B委員 屋外広告物の問題を挙げられていたが、誘導のサインが景観を阻害しているように感じる。富山では、どんなデザインにしたら良いかというのを理解してもらうために屋外広告物の表彰制度を行っている。もし予算があるなら良いデザインを積極的に表彰していき、共通認識を持てるようにしてはどうか。

C委員 まちづくり活動補助金について、府の外郭団体、都市整備推進センターにも補助金制度があるが、応募が少なく上手く活用されていない。一方、都市魅力部局において、ミュージアム基金を使用した補助金制度があるが、そちらは対象の幅が広いので好評で応募が多い。市の補助金の対象も範囲を広げ、住民が興味を持つまちづくり活動にまで広げたら活用されやすいのではないかと。景観の視点だけではなく、住民のニーズを考慮して制度を考えていくべきでは。

D委員 各地域の特性・ポテンシャルには違いがあり、それを活かしていくためには市民の意見を聞きながら進めていくのが重要だと思った。現在URでは千里山で建替え事業を行っているが、住民説明等をしている中で、意見が多く出ており、そういったことにも出来るだけ応えながら進めていくべきと感じた。

E委員 官民一体で取り組んでいかなければ景観まちづくりはできないと思っている。民間は敷地の緑化、官は無電柱化といったように、それぞれができるところで積極的に行っていくべき。電線を上部に設置できる下水管もある。そういったものを積極的に取り入れてみるのも1つの手法ではないか。コスト的な差はあまりなかったと記憶しているので、検討してみてもいい。また、例えば芦屋市は街区毎に緑のテーマを決めており、協定を締結し植栽を統一して植えている。また、植栽への水やり用の水道料金も別である。そういった市全体での取り組みも検討してみてもいいのではどうか。

F委員 千里山の桜もだが、町並みが大きく変わってきている。昔から持つまちの特性をもっと活かして欲しい。古い町並みのところはそれを残していったほうが気持ちの面でも安らぐのではないかと思う。

G委員 景観まちづくりとは少し違うが、安全性が問題でないかと思う。古い町並みも良いが、空き家が増えてきているので対策を考えるべきでは。

鳴海会長 吹田市は何か空き家対策は行っているのか。和歌山県は観光地の旅館等で空き家が増えてきており、景観の面から対策を始め、兵庫県も取り組んでいこうとしている。

野上都市整備部次長 大阪府下で建物の老朽化の問題が出てきていると聞いているが、具体的な取り組みはまだできていないのが現状である。

森都市整備部長 火事等安全性の面から、道路部局と消防部局等がタイアップしながら、パトロール等を行っている。

久副会長 生駒市の空き家対策まちづくりに関わっているが、所有者の理解を得るのが難しいのが現状。最近、空き家の所有者に対し勧告等を行える条例を策定したが、対策としては十分とは言えず、そこをどう乗り越えていくかが課題。

鳴海会長 取り組みの方向を少し変えるだけで多くのニーズがある場合もある。時間の経過で流行が変わることもある。それぞれの地区で景観的特色は違うし、それが動いていくこともある。調査等を行い、そういった変化にも対応できるような制度も考えることが必要ではないか。

H委員 環境部の中高層建築物の調停委員をしているが、垂水町、千里山、弘済院など、共同住宅建設に関する相談を受けている。地域が問題にしているところ、景観を守ろうとしているところに市も積極的に入って行くべきでは。住民が景観に気づいた地域に入って行くのも1つの方法ではないか。

鳴海会長 意見も一定でたので、各委員の意見を今後の取り組みに生かしていただくということで、本日は閉会する。

7. 閉会